

「第11期環境行動計画」では、気候変動や資源循環などの重要課題を指標として設定し、取り組んでいきます。

第11期環境行動計画（2023～2025年度）

カテゴリー	目標	対象範囲	2023年度	2024年度	2025年度
			指標		
気候変動	事業拠点のGHG排出量の削減 ・事業拠点の温室効果ガス（GHG）排出量を2025年度末までに2020年度比で30%以上削減する。	本社・東京工場 新潟工場 熊谷SSC	5,244 トン-CO ₂ 以下 (-10%以上)	4,662 トン-CO ₂ 以下 (-20%以上)	4,079 トン-CO ₂ 以下 (-30%以上)
	再生可能エネルギーの適用拡大 ・電力における再生可能エネルギー利用率を2025年度末までに37.2%へ拡大する。	本社・東京工場 新潟工場 熊谷SSC FDTP FFNA	12%	24.6%	37.2%
	製品の使用时消費電力によるCO ₂ 排出量の削減 ・製品の使用时消費電力によるCO ₂ 排出量を、従来機と同等以下に抑制する。	本社・東京工場	従来機と同等以下		
資源循環	サーキュラーエコノミー型ビジネスモデルに資する製品・サービスの開発 ・省資源化・資源循環性の向上を意識した製品・サービスを開発する。	本社・東京工場 熊谷SSC	省資源化・資源循環性の向上を意識した製品・サービスの開発 (*)		
	プラスチックごみ発生量の削減 ・プラスチックごみ発生量を2025年度末までに2019年度比で3%以上削減する。	本社・東京工場 新潟工場 熊谷SSC	77,000kg以下 (-1%以上)	76,300kg以下 (-2%以上)	75,500kg以下 (-3%以上)
SDGs	SDGs貢献ソリューションの開発・提供 ・SDGs貢献ソリューションを2025年度末までに累計15件以上開発する。	本社・東京工場 熊谷SSC 大宮SC・FJFS	5件以上	5件以上 (累計10件以上)	5件以上 (累計15件以上)
	良き企業市民としての活動 ・幅広い社会貢献活動を推進する。	本社・東京工場 新潟工場 熊谷SSC 大宮SC・FJFS	40件以上	40件以上	40件以上

* 一律の指標は設けず、幅広い観点から省資源化・資源循環性の向上を意識した製品・サービスを開発する。目標期間終了後、その具体的成果を評価する。